

第2回研修会

【講話】

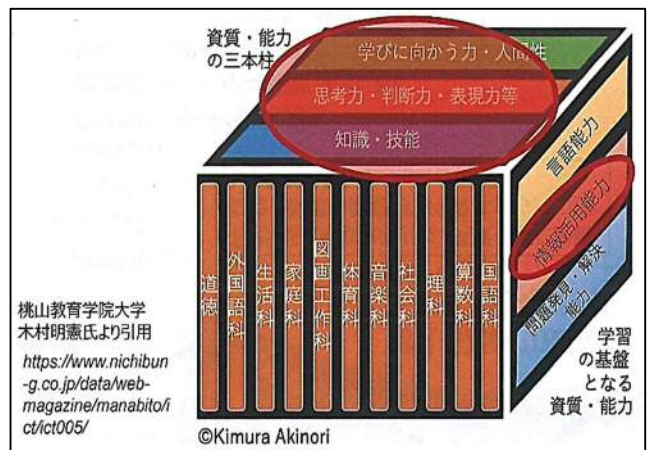
未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究の充実と  
カリキュラム・マネジメントの実現

愛知淑徳大学 准教授 加藤 智 氏

1 カリキュラム・マネジメントの充実に向けて

カリキュラム・マネジメントには、3つの側面がある。①カリキュラム・デザイン②PDCA サイクルの確立③内外リソースの活用である。カリキュラム・デザインを行うときに、教科の学習内容と総合的な学習の時間と関連を図ることは大切だが、そこにこだわりすぎる必要はない。学習の基盤となる3つの資質・能力「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・課題解決能力」を育成する必要がある。これらを育成するためにカリキュラム・マネジメントを行う必要がある。その過程においては、考えるための技法（考える際に必要になる情報の処理方法を具体化し、技法として整理したもの。）と思考ツールを効果的に使うことが求められる。

また、育てたい力が明確かどうか。明確でないと評価もできない。目標や評価規準を子供が理解していることで単元のゴールに向かっていくことができる。



2 探究の質を高める

高等学校では、総合的な探究の時間が行われる。自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開していく。より洗練された質の高い探究が行われている。思考ツールや地域人材を生かして課題の設定や情報の収集、整理分析、まとめ・表現を行うことも効果的である。

	情報活用能力
学びに向かう力、人間性等	学びに向かうための情報を活用する力 学習計画の立案、学習の振り返り、自己調整力など
思考力、判断力、表現力等	情報を活用して思考・判断・表現する力 考えるための技法・思考ツールの活用など
知識及び技能	情報そのものを活用する知識及び技能 キーボード入力、ソフトウェアの活用、情報収集、整理・まとめなど

3 総合的な学習の時間の単元構想

①現実の状況を知る。②理想の姿を定義する。①と②の間の問題状況を改善するために自分で「課題」を設定する。単元構想をする上では、子供身に付けさせたい資質・能力が備わっている状態をイメージし、そこから逆算的に単元構想をすることも一つである。

